

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276100316		
法人名	特定非営利活動法人 しおさい		
事業所名	グループホームしおさいの家		
所在地	御前崎市池新田7449-1		
自己評価作成日	平成27年1月5日	評価結果市町村受理日	平成27年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2276100316-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日本の文化として継承されている伝統行事(正月行事、節分、お月見、しめ縄作り、餅つきなど)を取り込んで、入所者の秘めている力を発揮する機会を作り日常では見られない所作を見逃さないようにし自信を取り戻し、生き生き暮らせるよう支援している。
地域の行事(文化祭、産業祭、案山子作り、砂丘保全林祭り等)に参加したり、市内の公園等に出かけ、大勢の子供たちと交流を深め、地域との関係を保持している。
夜間外出希望者には、蛍、イルミネーション見物など楽しんでいる。
日常的には、まず生活リハビリの取り組み、食事作り、片付け、洗濯、買い物などスタッフと一緒に自己自立を促している。また器具を活用してのリハビリも継続的に実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者の役割をつくるのが得意な事業所です。菓や金柑、柚子を早めはやかに調達して御社造りや連縄と、古のしつらえを利用者と職員の協働でおこなうことが時節行事に溶け込んでいます。ゴミ袋折や手動シュレッダー、食器拭き、洗濯たみなど生活リハビリは当たり前のことと踏まえ、「何もしない時間を過ごすのは…」との想いから始まった脳トレは、計算、漢字、パズルとメニューを多彩に備え、入所時の介護度が下がる例が続いています。表情が蘇り、滑舌も明確になる利用者の変容に「一人ひとりの自己肯定感につながっている」と職員が実感でき、すぐろくやるたを勤しんで手づくりする意欲につながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意識を高揚するための手段としてスタッフが担当している利用者について理念をどのよう に生かしているか記入している	『秘めている力を最大限発揮し、生き生きと ～』『～各々のペースでゆったりと～』との理 念はケアプランにも反映させていることから、 職員は実施記録簿に記録するたびに理念に 触れることができています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	近隣へ良く外出して話を交わしている。道路 清掃にも参加して交流を図る中で、互いに 理解を深めて頂いている	隣近所と花や野菜のやりとりも続き、イルミ ネーションや球根植えの見学、産業祭、防災 訓練と、理念通りの『町に出て、地域の人や 自然と触れ合いながらおおらかに暮らしま しょう』が実践されています。	地域とのつきあいは豊かですが、車 いすを利用する人が9名中5名と増え たことにより、参加者数が減っている とのことです。今後は『訪問してら う』ことへの取組みを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	精神障害者の就労の足がかりとしてボラン ティアとして受け入れている(市社協からの 依頼による)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこで意見をサービス向上に活かし ている	2か月ごとに運営推進会議を開催し報告して いる。また防災上の問題もよく話題になり協 力を依頼している(施設周辺が夜間暗いこ とを会議の中で話題になり、本年度街灯が設 置された)	お泊りサービスの指針に基づき併設デイ サービスとの仕切りを用意した件も議題とし ていて、運営における報連相が成されている ことを書面で確認しました。民生委員が街灯 設置のアドバイスをくださった例もあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進者会議に報告するとともに市担当 部署を訪問し指導を仰いでいる。	公的機関をはじめとする3団体への認知症 サポーター養成講座の講師派遣依頼も届い ており、密な関係が覗えます。また、地域との 関わりを積んだ結果の表れとして防潮堤の 署名依頼といった声かけが増えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0(ゼロ)宣言実施。	玄関の施錠はありません。外に出たい意向 は制限せず、職員が付き添うようにしていま す。所内勉強会の資料を整え、ミーティング 時にリスクマネジメントの学習も含め基本を 繰り返し確認することで未然に事故を防ぐ努 力を続けています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	虐待はない。 言語的暴力もないよう留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度に該当している利用者はいなくなったが、研修等に参加して知識を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて説明し納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表を委員にして意見を聴いている。 意見箱も設置している 毎月の支払いに来訪願い、意見を聴いている	一年を通じて運営推進会議への参加を呼びかけましたが、結果はこれまで同様家族代表のみに留まりました。長いつきあいから「お任せします」との家族が増え、事業所の透明性かつオープンな態勢が必要となっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常生活の中で言い易い職場づくりに配慮している。毎日セミナー時の意見や日頃の職員の意見を出す時間を設けている	病気や未就学児童の看護に伴う長期休暇のあった職員もいたため、有給の取り方についてあらためて確認しています。「(塩害で)エアコンの入れ替えが必要」といった備品購入は率直に進言され、採用されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年の労働基準監督署来訪後、担当官に聴きやすくなり都度聞いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市、また市包括支援センターの研修に参加したり、近隣の施設の方とも交流したり、研修に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会や研修会参加し、相互理解による向上に努めている。メールも交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々に担当をつけておみや希望をきくよう努めている。家族からも聞くようにしている。また生活のひとこまーコマーコマからも思いや考え方を推察するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症のゆえに本人が思いを十分に伝えられない事も良くあり、家族からは十分な情報が頂けるようよう聞くとともに心配や不安のないようにしている。事あるごとに家族に電話している。また毎月1回全員に手紙を書いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望を聞き入れ、早期に対応し安心を感じて戴き、職員が情報を共有し、職員間で統一した対応ができるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を一緒に作ったり年中行事の由来を教わったりしながら、支えあっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には事細かに連絡を取り、本人をささえるのに協力して頂いている。誕生日や米寿のいわいなど、家族の思いを寄せていただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と墓参に出かけたり、親戚へ出掛けたり出来るように心掛けている。友人等も自由に来訪している。	面会には時間制限を設けず、また友人、知り合いの訪問者も歓迎しています。三味線、オカリナ、尺八、書道、紙芝居と、おしなべて週1回程度のボランティア訪問があり、顔なじみとなって皆心待ちにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しそうなときは仲介して孤立しないようにし、利用者同士が小さなことでも支えあえるよう支援している(ボタンをはめたり、靴下をはかせてくれたり車椅子を押してくれたりと等々)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了してからも来訪してくれたり、自宅の庭の花見に招いてくれている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に一人一人の思いや希望をくみ取り把握して共有している。(センター方式活用)居宅のケアマネと兼任であったが、グループホーム専任のケアマネとし、思いや希望を聞いている	「何が食べたい?」「何がしたい?」との質問は何度もおこない、食べ物に関しては概ね把握しています。また、救急時の判断軸についても家族の意向を整理してシート化し、職員が適正な判断をとれるようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ今までの生活が継続できるように過去の経過をくみ取って把握するようにしている。担当者を一人一人につけてほかのスタッフにも協力してもらっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引き継ぎを十分行って一人一人について総合的な把握が出来るようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人の担当者が毎月モニタリングを行い計画作成担当者(ケアマネージャー)また本人家族等と相談し介護計画書(ケアプラン)を作成している	法人内の居宅介護事業所ケアマネージャーの兼務から、本年度はあらたに専任が付き、聞き取りがより丁寧におこなわれています。実施したことは記録簿にチェックが入り、プランに生かされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別ケア記録やケアプランの実践記録を残し、他方で毎日2回の引き継ぎをし、なおケース引き継ぎ録を閲覧して共有し話し合いでケア計画を立案している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズが多様化しており、医療的な希望もまし、看護師の勤務を増やしたり看護師同伴の受診にも柔軟に対応している。利用者や家族の体調不良に伴う緊急を要する宿泊にも対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	障害者グループの配本サービスや市内へのイベントに参加し暮らしを楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の意向に沿って医療を受け、かかりつけ医に受診受薬を受けている	在宅の頃からのかかりつけ医に第二、第三の協力医となってもらい、受診支援の大半は職員がおこなっています。ただし、家族にも関与して欲しいとの思いから、認定調査や初診についてはお願いをしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師を採用し日常の健康管理をしている。24時間オンコール体制をとっている。スタッフに周知出来る記録をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時度々見舞い、担当スタッフと情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアも実施している。体力レベルが低下した時点から本人・家族の思い、医師の指示等考慮しターミナル計画を作成している。	協力医は看取りについて前向きな支援を快諾くださっていて、周辺の他の医院も協力的です。重度化の指針を作成し書面も揃っており、実績も数えきれないほどありますが、職員交替が原因となり、職員自体に経験が少ないということが課題です。	リーダー職が夜間でも3分ほどで駆けつけることができますが、本件はメンタルケアも求められるため、未経験の職員への教育研修に早期に取り組むことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急訓練を年6回実施、初期対応に努めている。 入所者個別の救急時の対応を明記し、救急時に迷わないようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難・救急訓練を独自に行っている。防災支援ネットワークに加入し、地域企業の協力体制ができています。	利用者1名にてんかん症状があるため、気道確保の処置については職員全員が体得しています。職員のなかには防災士もおり、また毎回避難時間を計測して段階的な避難場所を周知しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保はスタッフ全員が常時念頭に置き対応している	面会簿は利用者別にすることでプライバシー保護に努めています。精神障がいと診断された利用者もいて、職員は個々のパーソナリティ及び言動の特性を理解し、声かけのタイミングに配慮していることを視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の利用者に担当をつけて希望を聞いたり、自己決定出来るよう支援している。認知症故、言葉で表現できないので思いもくみ取るよう努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人に担当職員を決め、利用者一人一人を深く理解し対応するようにしている。 利用者によっては遅くまで起きていて朝食を遅く食べるなど、今までの自宅での習慣に合わせている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝はどんな洋服が着たいか聞きながら、清潔感のある服装を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき・切る、から味見・配膳・片付け等無理なく参加している	その人を活かして、下ごしらえに利用者も加わり生活リハビリが充実しています。赤・緑・黄と見た目の配色に気遣い、また状況で器の形態を選択しています。旺盛な食欲が頼もしく、生きる力が満ちているように感じました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食習慣を理解し、一人一人に合った食事(粥・刻み・果物・水分・おやつ)や、量を提供している。 食生活推進協議会に所属し老人食などの実習をしたり知識を得ている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアやおやつ後のくちすずぎや義歯の清掃や夜間の保管等実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、全員トイレで行っている	排泄障がいのある利用者が2名いて、症状に応じたケアをおこなっています。また夏のソーメン流しでは看護師3名もイベントに参加して、楽しい空気のなか、水分の上手な摂り方についてわかり易い解説がありました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しないよう毎日食事で繊維質の多い材料を吟味したり、沢山食べられる工夫をしている。排便表を付けて便秘していないか注意している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回～3回の他、希望で入浴している。	足拭きや洗いタオルは人毎に替え、隔日入浴で清潔を保っています。併設デイサービスが午前、当事業所が午後と時間帯を定め、「一番風呂に入りたい」「ぬるいのがいい」との要望にも工夫がみられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日光浴や買い物などにでかけ安眠できるようにしている。また、就寝や起床の時間も自由にして、良く眠れる時間帯で睡眠をとっている。添い寝やスキンシップで安心を感じていただいている人もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	概要を理解しているが、全員全薬を理解していない。一日分のサンプルを全員作り、都度確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誰もが無理なく役割を持って毎日遂行できるよう促し、遂行できたときは感謝の言葉をかけ、喜びを感じていただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物やイベント、散歩・コンサートなど希望を聞いて気楽にでかけている。図書館にも良く行っている。退職したスタッフが食事などに誘ってくれている。	歩行訓練を兼ね、また歩行力を確かめつつ、河津桜や藤棚、コスモスの花々から季節を感じつつの散歩があります。体調がはかばかしくなく「出たくない」という人にはベランダで日光浴をおこなうほか、近くの図書館に頻繁に通う人もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同伴して支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも代行してかけている。手紙は代筆してきた しかし高齢化と高介護度化により少なくなってきた		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花を活けている。食事は利用者と職員の協働作業で作っているので食事の香りや皿の茶碗の音も適度に有り、生活感や季節感を感じてもらっている	利用者はリビングに集い、思いおmoiのアクティビティに取り組んでいます。通路にはブロンズ製の重厚なレリーフ、ピエロや花が描かれた油絵が飾られ、明りとりの天窓から優しい陽がこぼれ、一瞬小さな美術館にいるかのような錯覚を覚えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室に自由に出入りしたり、気の合う利用者同士で各々に部屋を往来したり、思い思いに過ごせる工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、思い出深いものを飾ったり、また転倒防止等の工夫も本人の希望を考慮し行っている	異食がある利用者の部屋は小物を置かずスッキリと片付いていますが、ほかはそれぞれ好みの居室で暮らしていただくことを視認しました。昨年よりもふんだんに書道の力作が掲示されていることも目を惹きました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	流し台や配膳台は低めにして食事の支度に参加し易くしている、物干し台も風雨があたりなくて干しやすい位置にしたり高さを調整している		